

## ヒアリング調査概要

## 事業者ヒアリングの実施

市内でさまざまに活躍されている 30 の事業者へのヒアリングを実施した。

### 1) 事業者ヒアリングの概要

日時：2022年8月16日（月）～9月20日（火）

ヒアリング対象：29 団体

日程	ヒアリング団体
8月16日（月）	【商工】バー チャールストーン 興津氏 【商工】イマジンハウス 澤村 章男氏
8月22日（月）	【観光】門前おかげ楼 大野氏 【観光】森のレストランラッキーガーデンオーナー 池原賢美氏 【商工】株式会社谷口ワイン店代表取締役 谷口亜希子氏 【商工】住もっと代表 川上リサ氏
8月23日（火）	【観光】近畿日本鉄道 営業企画部（宣伝・レジャー）課長 岩崎正義氏 【観光】生駒交通株式会社社長 池田英憲氏
8月25日（木）	【商工】グッドネイバーズ 佐村氏、丸山氏 【商工】一般社団法人無限 石田 慶子氏（チロル堂）
8月31日（水）	【商工】カフェ hygge オーナー 山田知子氏（市役所会議室 303） 【市民】中垣由梨氏 /ICO web design（市役所 201 南室） 【観光】KINA+IC inc. 喜納 正継、まさよ氏 【観光】生馬大社 大森氏、谷野氏 【観光】上田酒造 上田宗平氏 【商工】株式会社 GIFT 越田歩氏
9月1日（木）	【観光】鹿音 ゲストハウス 代表 太田氏 【観光】観光ボランティア協会 渡邊氏 【市民】三浦 幸乃氏
9月5日（月）	【商工】高山製菓株式会社 代表取締役 齋二 隼氏 【商工】グリーンプラザ山長 代表 長底章夫氏 【商工】Petit Maruju 寿円早綾氏
9月9日（金）	【商工・市民】ヒロミメシ 藤井宏美氏 【商工】株式会社ケーイーシー代表取締役 小椋義則氏
9月15日（木）	【商工】近鉄百貨店 生駒店 花川支店長 【商工】MST コーポレーション 製造部門 部長 東氏 【商工】Rewpe 小倉氏
9月20日（火）	【商工】TJグループホールディングス株式会社 東野（とうの）氏 藤本氏 【商工】上六印刷株式会社 犬伏 尚樹氏

## 2) ヒアリングの項目

ヒアリングは、それぞれ1時間程度、以下の項目を質問しながら進めた。

- ヒアリング対象者の基礎情報について（所属、居住地、出身地、所属先に入ったきっかけ、など）
- 主な事業について（現況・課題・展望）
- 生駒市に立地していることの魅力・メリット
- 生駒市に立地していることのデメリット・課題
- これからの商工業・観光のありかたについて（どうなっていく、またはめざしていくか）
- 生駒市がどんなまち、地域になったら良いと思うか
- 生駒スタイルについて（知っているか・事業がどれかに関わるとおもうかなど）
- 地域経済循環について（現在の状況と、今後どうしたいなどあれば）
- 他に面白いことをやっている、考えている個人や団体の情報
- その他

## 3) ヒアリングの実施風景



#### 4) ヒアリングのまとめ

ヒアリング内容を分析した結果を下記に示す。

##### **生駒市民の特徴**

- ・ 上品で保守的
- ・ 課題が少なく、地元に関心が薄い
- ・ 暮らしに満足していて生駒が好き
- ・ 豊富な人材（デザイナー、アーティストなども多い）
- ・ ボランティア気質がある（商売っ気を出さない）

##### **事業者の特徴**

- ・ ガツガツした商売をしない
- ・ 魅力的なお店、家族で利用できるお店が少ない
- ・ こだわっているお店が魅力的
- ・ 不動産のミスマッチ

##### **事業者間のつながり**

- ・ まとまりがない（特に観光関連事業者）
- ・ 興味、関心で集まっているつながりが多く内輪感がある
- ・ 新たなつながりが必要（行政の協力が必要）

##### **事業者と地域のつながり**

- ・ 程よい距離感がある
- ・ 人が集まる機会の創出を実践している（寺子屋、コミュニティスペース）
- ・ 地域貢献につながる活動の展開に意識がある
- ・ 行政と協働した取り組みへの意識がある

##### **多様化する働き方への対応**

- ・ 働き方の変化への対応
- ・ 地域内雇用の充実

##### **地域経済循環の充実を図る取り組み**

- ・ 市民の取り組み（市民意識の変化を促す）
- ・ 魅力的な個店づくり
- ・ 起業・創業の支援
- ・ 副業の可能性
- ・ 集まる機会づくり

【意見の抜粋】

		意見
生駒市民の特徴	上品で保守的	生駒市は客層が良い。お客さんの質が良い
		生駒市の人には食べるもののレベルが高いと思う。地元のものを食べることができるのもよいと思う
		ベッドタウンなので、お客さんも多い。所得が高く、資産も多い層（貯蓄率など）が多い
		住むには良いが、一般的な商売は難しいかも知れない。お客さんの見る目は厳しいところでもある
		市民はある程度安定している。上品な人が多い。客層が良い平和なまち
		生駒市は、まじめな人が多いと思う。開発されたまちで所得層の高い人も多い。均一なイメージもある
		真面目にやる人が多い。きちっとしている
		生駒市内は多くの塾があり、充実している。父母が高学歴の傾向があり、子どもたちへの教育に力を入れている
		生駒市の地域柄は抜群に良いと思う。事件や事故も少なく、治安が良い。住むのには最高だと思う
		生駒市は客層はとても良いが、人が少ない
		生駒は、高くもなく安くもなく、微妙なバランスがある。安売りだからといって人が集まるわけではない。生駒ならではの価格帯がある。店にも心の余裕がないとお客さんは来ない。
		地域性として、ランチに払うお金なども地域で考え方が異なる。生駒では、せっかく食べるなら、会いたい人と食べて、おいしいものをゆっくり食べたいという人が多いと思う。
		生駒市の人には、どなたと話しても同じような雰囲気がある。上品で穏やか、静かな印象がある
	課題が少なく地元に関心が薄い	生駒市の人には、意外と自分の地域のことを知らないケースも多い
		生駒市の人に、今のままでは決して良くないという、そこまでの危機感があるかどうか。一体となる取組に向けて、行政から働きかける必要
		生駒市は課題が少ない。その裏返しで、課題が少ないからあえて何かをやらうとしない人が多いと思う。課題がないから外に出ない傾向にあるかもしれない
		親が大阪などに仕事に行っている、子どもたちは地元の学校に通う。もっと地域、日々の暮らしに興味を持ってほしい
	暮らしに満足していて、生駒が好き	生駒市は協力的な人が多いと思う。排他的ではないと思う。ある意味余裕があるのかもしれない。生駒を良くしたいという人も多いと思う
		生駒市は県外で働く人も多いが、生駒が好きで住んでいる人が多いと思う。口コミで興味や関心が広がり、みんなに関わるようになっていく
	豊富な人材	デザイナーや建築家、アーティストなども住んでいる。潜在的なスキルを持っている人がいい。接続できればと思う
		生駒市は住むまちである一方、他都市から来る人も多く、居心地が良いところ。その分いろんな考え方の人がいる
		子どもたちがすれていない、しっかり成長していると思う
		生駒市は、新旧入り混じっている地域だと思う
		イベントなどへの参加を通じて、デザイナーの役割の大切さを知った
ボランティア気質がある	生駒市全体として、ボランティア気質が高いのはよいか、余裕があることの裏返しかもしれない	
	ボランティアをやることに誇りはある。有料化のなかには利他を崩しそうな感覚	
	地域活動に割く時間は無償。仕事に当てられればという思いもある。自分の中でうまく整理してつなげられる人なら良いが、そうでない人だと切り分けて考えることになる。巡り巡ってつながる、と実感できれば良い	
	この規模のまちなら、まちづくりという視点になると思う。「利益を上げる」ことを考えるとおかしくなると思う。セカンドビジネスが地域と交われば、面白くなると思う	
生駒市の事業者の特徴	ガツガツした商売をしない	個人商店の中には、事業規模をあえて大きくしない店もある。消費税の納税に関する1000万円を区切りとしてとどまる店もある
		インターネットでは販売しない方針。それが生駒市にはあっていると思う。
		利益を上げることを考えるなら難しい。一人で店をやっているが、一人ではないと思えることが成功だと思うならば、その実感はある。支持されていると感じる
		生駒市では、商売にがつがつしている人は少ない
		生駒市ではがつがつ商売をしている人は少ない
		奈良は保守的な地域風土なので、小さい店でも続けていければ成り立つと思う
		率先して引っ張るといった人は少ないかもしれない。変わったことをする人がいない。面白味に欠ける面もあるかもしれない
		地域で稼ぐのは良くない、というような風潮がある気がする。もう少し実際に回るように、続けられるようになればと思う
		今後市内で事業者が続いていくためには、個店の事業承継も大きな課題と思われる。自分の代で終わりにするので継がなくてもよい、または常連客だけでよいと考え、事業承継するつもりがない人が多い。ガツガツしていないという点で生駒らしいともいえる。

	魅力的なお店、家族で利用できるお店が少ない	高級な店かチェーン店のどちらか。この間の店がない
		生駒市には「すごく魅力的な店」が少ない。外向きにも必要だが、生駒市の人を楽しめる店を増やすことが大切
		飲食店が少ない。チェーン店や郊外型店舗はなんとかやっているといるかもしれないが、個店は難しいかもしれない
		自分たちの世代は車で買いたい物を買に行くことができるが、個人の店、商店街が盛り上がりよと思っている。この近辺も店が減ってきた
		生駒市内には家族向けの店が少ない。小さい子ども連れとなるとどうしてもショッピングモール、イオンやファミレスになってしまう。家族ではその習慣が根付いてしまう
		家族連れは、おいしい・安いとともに、気が楽な方を選んでしまう。
	こだわっているお店が魅力的	「まちのお店屋さん」、まちの一つある店、になれればと思う。愛される店を続けていきたい
		野菜などの購入も、良いものが買える。作っている人が楽しいと思って作っていないと美味しくない
		プライベート感、小さな規模感、顔がさす人への配慮などが今の良さとなっている。
		3世代くらいの家族が来てくれる店を目指している
不動産のミスマッチ	不動産屋にとって、生駒市は難しい土地と聞かされてきた。意外といろんなものが高い	
	家賃設定の感覚のズレがあると思う。不動産物件を貸す側と借りる側の思いにずれがある	
	チャレンジショップを始めるには、まず貸してくれる人を探すことから始めないといけない。そこまで手間をかけるのは、不動産屋にとってやるメリットがない	
	高齢の家主はなかなか閉鎖的。知らない人に貸したくないという人が多い。なおさらチャレンジショップなどで若い人たちの顔を知ってもらうことが重要だと思う。	
	身近なところでできることから始めていくことが大切だが、駅前是不動産、土地の値段が高いのがネックになっている	
	沿道の土地が高すぎる。それほど売り上げも見込めない土地なのに、小売店・飲食店には地代が高すぎる。収益が上がりにくい、上げにくい土地でも高い	
	生駒市では、自分で土地を持っていない限り商売は難しい。地代と収益のバランスがとれるかという点が問題	
	地主さんが高齢になり、また生活に困っていないから家賃を下げないのではないかと思う。もっと柔軟に、間口を広げてもらえると、若い人や元気なシニアなどいろんな人がチャレンジしやすくなるのではないか	
	個店が増えればよいと思うが、不動産とのミスマッチが多いと思う。地元の人貸してくれないことも多い。駅の南口などは、地主が分からない、持ち主が貸したくないという物件もある。若い人が入ることができない。70～80歳代の地主の意識が変わらなければと思う	
事業者間のつながり	まとまりがない	宝山寺はエリアとしてまとまっていくことが必要。まとまって考えていけるように引っ張っていくような人が増えたらよいと思う。
		このエリアはいろんな考え方の人がいてなかなかまとまらない。参道には宿場町としての文化があり、外部から入りにくいところがある。
		生駒山をどう生かすかが重要。進め方として、小さいまとまりをいくつも作って、束ねていく方法がある。1つ1つ個別の課題やテーマで進めていくと、話がまとまらない。共通の大きな枠組み、テーマとなる「カード」が必要。似ている傾向の人がつながり、それをつなげる、人の循環ができるようなカタチ、仕組みが必要。
		大阪には安いものから高いものまでいろいろある。生駒の個人店舗では太刀打ちできないのではないかと思う。束になれば何とかかなるかもしれないと思うが
	興味、関心で集まっているつながりが多く、内輪感がある	地域の人は単独でやっていることも多い印象がある。それぞれの考えで進んでいて、考えの合う人がそれぞれ集まっている印象がある。
		やりたいことなど共通する人とのつながり、興味関心などで一緒になる人が見つかる場所は良いと思う
		やってみると楽しいこともある。やってみると同じような人が集まってくる
		生駒で活動している人たちは、ある意味目立つ人たちの集まりになっている
		ゆるくつながる部分、「がっつり〇〇をします」とは言いたくないが、何か一緒にできればという気持ちはある。ただ、仲良しグループ的になると、外の人にとってはアウェー感を感じることもある
		地域の人地域の人を知らない。みんなが集まる場所があまりない。イベントはたくさんやっているが、後から入りにくい雰囲気がある。内輪で仲が良すぎて後から入れない
	新たなつながりが必要	点の活動をつなげていくようなもの（おもしろい活動をしている事業者さんやお店）があるとよい
		大阪には安いものから高いものまでいろいろある。生駒の個人店舗では太刀打ちできないのではないかと思う。束になれば何とかかなるかもしれないと思うが
		お互いの店の訪問など、もっと気軽にできればと思う。忙しいかもしれないといふ気を遣ってしまうこともある。情報交換など交流を広げていければ、横のつながりを広げていければと思う。まだ知らない店も多い
		みんなで協力しながら取り組んで活性化していければ良いと思う。横のつながりは大事だと思う。気持ちはみんな持っていると思うが、機会がないのか、引っ張る人がいないのか、今までできていない
		お互いの店をライバル視するのではなく、一緒に大きな商業集積を作っていくという考え方で進めていく流れだと思う。全体として取り組んで、エリア価値の向上につなげていければと思う
		良い感じの新しい店もこの10年で増えてきた。お互い知っている人も多い。市役所のイベントなどで一緒になり、つながりができたりする

		<p>生駒市はつながる機会が多いと思う。自分で何かやっている人にとっては、何かしらつながりやすい土地だと思う。グッドサイクル生駒など</p> <p>お店とお店、事業者同士のつながりが薄い。行政が交流の場をつくるなどの取り組みがあったらいい。流通の情報交換やつながりづくりが必要</p> <p>何か事業別分野の人と戦略的に協働ではじめてみたい</p>			
事業者と地域とのつながり	ほどよい距離感	<p>生駒市の人みんな大阪に出ていく。そのためなのか、あとくされのない感じの接し方をする人が多い</p> <p>地域密着度が低いのかも。常連が居座ることが少ない。他所から来た人が入りにくい、ということがあまりないように感じる。</p> <p>まちのために何かをするというのは、まず自分ができていないと失礼だし、伝わらないと思う。「やってみたい」だけでは始められないと思っている</p>			
	人が集まる機会の創出	<p>生駒市は、人が集まる機会が多いと思う。そのような機会を通じて、口コミで来てくれる人が増えていると思う</p> <p>月2回の「寺子屋」をしている。自分自身のリフレッシュ、子どもたちが安心して過ごす場所になればと思っている</p> <p>店舗の10畳くらいのスペースを、フリースペースとして貸していた。コロナ禍で中止しているが、地域の人が使う場所として提供していた</p> <p>小さい公共的な空間になればとの思いで始めた。生駒でなら、花を売るだけではだめだと思ったこともある。何か地域に役に立つことができればと考えていた</p>			
	地域貢献につながる活動の展開に意識がある	<p>地域貢献につながる活動として、工場見学なども受け入れている。お客さん、業界の人、中学生など。可能なら奈良県の教育委員会などが考える見学先の候補に入れてもらえればと思う</p> <p>工場見学などを通じてものづくりの魅力を伝えたいが、どのようにアプローチしていくか、こちらからアナウンスをしてもなかなか伝わらない</p> <p>子どものリクルートにつながるように、親を含めた見学会などももっとしていきたい。工場の内覧会などもある。これらを通じて、市民のものづくりへのイメージが変わればと思っている</p> <p>近鉄百貨店は地域密着の店が好調。お客さんに喜ばれている。近隣の利用が大きい。いろんなセクションが地域密着取り組んでいる</p> <p>長く続けるためにという視点を大事にしている。利益だけでなく、つながりを持つことを大事にしている</p> <p>つながりがつくりやすい、信頼を作りやすい地域だと思う。自分の地元でもあるので、その意味でもやりやすい</p> <p>市民が作るカルチャーセンターのようなものができたらいい。地域全員で何かに取り組んでいけないか</p> <p>塾に行く子供等はおにぎりを食べている。塾ご飯を提供し合うなど、儲けるという感覚ではなく、地域の困りごとへの解決を事業者みんなで取り組んでみる。そのようなことがさまざまな事業者が始めるといいと思う（1店舗だけではなく）</p>			
	行政と協働した取り組みへの意識がある	<p>15年前などは、事業者が全てをする時代だったが、今は自治体と一緒に取り組むのが当たり前の時代になった</p> <p>包括連携協定など、店の中で市民お役に立つスペースを確保して利用してもらうことなどもあるかもしれない。現在は期間限定の選挙の不在者投票の投票所などに提供してもらっている</p> <p>SDG's など市と協力して進めていきたい</p> <p>SDGs や CSR に取り組む専門部署があるわけではないが、経営管理部がおこなっている。何か協力できることがあれば声をかけてほしい</p>			
	イベントや取り組みの特徴	中途半端な印象	<p>どこか中途半端なところにとどまっている印象がある</p> <p>生駒市では、いろんなものがすべて中途半端な印象がある</p>		
		マルシェイベントの増加	<p>生駒マルシェなど、女性が元気な印象を受ける</p> <p>4~5年前からマルシェが増えてきた。ここに来る人は、まちが好き、いろんな活動を見たいという人だと思う。つながりは広がりやすい。公共の場でもっと増えていけばよいと思う。女性が多いが、男性も増えればよいと思う</p> <p>新しい層の取り込みが必要。30~40歳代の働き世代の人、リモートワークや在宅ワーク、副業その他の視点からアプローチできるのではないかと</p> <p>生駒市の1/3の専業主婦層、この層に向けた取組は成果が出てきているかもしれない。まだまだ人はいると思うので、掘り起こしも大切だと思う</p> <p>らららマルシェは、公募はしておらず一度見に来て、次にどうするかきめている。出店者同志のコラボ商品も生まれてきている。自分を起点に集まりが生まれている</p>		
			食の取り組み	<p>食べ物、食への関心は重要だと思う。食べるものと心の問題は関連があると思う。食育なども大切</p> <p>食からつながる幸せが広がってほしい。つくること、食べることは大事。買って来たものを食べるだけでは広がらない</p> <p>仕入れ・購入の良いサイクルができればと思う。出荷できないがおいしい野菜を回す、廃棄を少なくするためにもいろんな場所で開催されればよいと思う</p> <p>フードロスを減らす取組なども考えられる。地域・市役所などと連携して一緒にできればと思う</p>	
				子ども若者支援	<p>また子どもたちが戻ってこられるまち、出たくなるようなまちになればと思っている</p> <p>今は高齢者にやさしいが若い人にはやさしくない。若い人にもやさしいまちになれば、高齢者にも優しいまちになる</p> <p>若い世代も関わる意義を見つけてほしいと思う。まず関わるきっかけがあればよい。そのためには大人が楽しく活動していること、楽しく活動している大人が増えればよいと思う</p>

		住みやすいまちではある。子育てしやすいまち、安心感があるのは良い
		将来に向けて、子どもたちが仕事を体験するキッズニアのようなものがあれば良いと思う
		子育て世代が気兼ねなく子どもを預けて周りを見て回れるような場所、気を遣わなくてもよい場所があればよい
		教育について抜本的に解決したいが、今できることをまずは取り組んでいる。勉強のやり方や方法など、学ぶことへの対応、人生のスキルを学ぶことを大事に考えている
		環境学習やアグリビジネスなどを行い、子どもたちに生駒市がやっている取り組みを記憶に残したい
	脱ベッドタウン	住むだけのまちではないほうが良いと思う
	脱ベッドタウン	脱ベッドタウンといえども、奥は深い。「脱」ではなく、さらに充実、上積みしていくような考え方が良いのでは
	脱ベッドタウン	商工観光という面からは、「しっかりしたベッドタウン」を目指すというのもありだと思う。寝に帰るではなく、「しっかり暮らす」という意識に振り切るほうが良いかもしれない
	脱ベッドタウン	ベッドタウンであることは悪くはない、住んでいる人がすみやすいと思ってもらえるのがよい
	脱ベッドタウン	「ベッドタウンからの脱却」について、多くの市民はどう思っている、意見はさまざまだと思う。これから意識を変えていくために、大きな方向性を見せていくことも必要だと思う。行政が間をつなぐ役割を担うのが良いと思う
多様化する働き方への対応	働き方の変化への対応	まずは起爆剤が必要。生産性ではなく遊びを絡ませることが必要。おしゃれ、デザイン、若い人たち（特に女性）が元気にしていることでよい雰囲気ができてくる
		価値観も、大阪中心から地元の見直し、働き方の変化など。グッドサイクル生駒に掲載されている方やこの店に来てくれる人も同じような感覚なのではないかと思う
		何かやりたい気持ちを持ったお母さん世代で、子育てとの両立を考える人、両立できることをやろうという人が増えてきたと思う
		少子高齢化で自動化、省人化・無人化が進んでいる。ロボットやAIの導入など、人でなければできない仕事以外で進めている。工場の建替えとともに導入を始めた。24時間稼働している機械もある
	地域内雇用の充実	仕事はあるが人がいない現状、他社よりも先に人の確保をしていきたい。少し多く出しても、確保していきたい
		これからどんどん労働力が少なくなっていくので、「人手不足倒産」という会社も出てくる
		一方で、人材確保が難しい。人はいるのに、どこに行っているのかと思う。もしかしたらITに目が向いているのかもしれない。ものづくりに興味のある人はどこにいるのかと考えている
		採用希望者は地元からの人が多い。県内に残りたいというニーズに応えられる面はあると思う。特に女性の県内での就職希望者。男性は県外を志向する傾向が強い。
		まずは一番近い生駒市の人に来てほしい。工場見学などを受け入れて、リクルートにもつなげていきたい。生駒市からも工場見学を受け入れていることなどPRしてもらえればと思う
		事業をすることで地域内に雇用が生まれる
資源の活用	生駒山の活用	生駒山、意外と評価が高くない。山でどのように時間を過ごすのかイメージできないからかもしれない。山でできることの楽しさを知らない人が多いのかもしれない
		短距離の客は以前より増えている。生駒山上遊園地や生駒スカイラインなどは増えており、力を入れて取り組んでいる
		生駒山上遊園地は大阪府内、奈良県内からの客も多い。しかしまだ知らない人も多く、もうなくなったと思っている人も多い。住んでもらう環境が整っている生駒市にこんなものがあるとPRすることもありだと思う
		観光面では、生駒山、宝山寺は大きな魅力
		宝山寺への道など良くなっており、ハイキング客なども増えている。しかし来訪者はそれほどお金を落とさない。今の形では費用対効果が薄い。発展につながるのか疑問がある。来訪者がお金を落とすような仕掛けが必要
		宿泊場所・施設を増やすこと、そして夜の街の魅力を高めること
		門前町は市街化調整区域の制限を緩和することで新たな人が入ってこれるのではないかと思う。空き家はあるが、売りにも出ない。参道の空いているお店（やりたい人はいっぱいいる）の場所などはもったいないと感じる
	駅の活用	近鉄は生駒市内に14駅あり、それぞれの駅ごとに機能や個性が異なる
		駅前が寂しいと思う。点在している店には良い店が多いが、商店街には空き家店舗も多い
		生駒市は駅近くの駐車場の相場が高い。ゆっくりできない。車で行きにくいので、むしろ郊外の方が行きやすくなる
	高山	駅の南側は、中途半端。マンション化するのか、魅力的な商店街にしたいのか、方向性が見えない。商店街の人たちの意識を変えないといけない。取組の抜本的な変更が必要。思い切ったことをする必要がある
		高山製菓に来てもらって、高山地区の茶釜に関連する場所を回ってもらってゆっくりできるようになればと思う
		道の駅などがあればと思うが、スポットが足りない。スイーツなどを提供する店があってもよいと思う
	お土産	観光について、人が出入りするということについて地元の考えは半々だと思う（自分はウエルカム）。少しずつ古い人たちも変わってきているとは思う
「竹あかり」など、イベント時には盛り上がるが通常時をどう考えるかが課題。田舎と表現するのか、里山と表現するのかで印象は変わる。何も無い良さをどう伝えて生かしていくかが課題		
広報・PR	生駒市には特産物、土産物が少ない。生駒のものを使ってできることはたくさんあると思う。コラボや掛け合わせで売れるものもある。みんなで力を合わせて面白いものができればと思う	
	生駒に10数年住んでいるが、外におみやげに持って行くものがない	
広報・PR	外からくる方に生駒は良いところと多くの人があると思う。もっと生駒の魅力を伝えられればと思う	



		「生駒市とは？」について、みんなが明確に答えを言えるようになればよい。そのためには今あるものを発信して知ってもらうこと、イメージ作りが必要
		生駒にはいい活動がいっぱいあると思うが、そもそも知らない人が多い
		来たことがない人に発信するツールがない
	市の PR	生駒市役所は、事業者・市民に近いと思う。PR その他、市役所だからできることがあると思う。地味かもしれないが、広く裾野を広げる取組などは良いと思う
		グッドサイクル生駒は良いと思う。都会に近い自然がある環境の良さを生かして暮らしてほしい
		生駒市は、PR は上手だと思う。いこまち宣伝部など
		生駒市役所のHP は堅いと思う。もう少し見やすく、わかりやすく、目的が無くてもちょっと見てしまうようなものにできればよい
		広報的なバックアップがあると良い
	市民の取り組み	収支の循環に関わる市民がいけない
		生駒市内で生活している人の経済活動とリンクした活動をしたい。昼間にまちにいる人たちを引っ張り出したい
		地域のものだからというより、消費する理由が必要ではないか（おいしい、楽しい、居心地が良い）
		このまちを気に入っている人も多いと思う。地域経済循環の考え方は広がると思う。SNS の発信で自己満足するのではなく、人を誘う、人をつなげるものになればと思う
		取組を増やしていくためには、まず体験や経験する機会を増やすこと。実際に体験したら変わる。それを周りの人にどう伝えていくかが大事
	魅力的な個店づくり	地域経済を回していくためには、事業者が増えないといけない。商店の活気を上げる、種類を増えることなどが必要
		商店は、住んでいる人に喜んでもらうことが大切。暮らしの中での積み重ねが大切
		生活必需品ではないものにお金を使いたい人も多いのではないか。必要なものより夢のあるもの、しなければいけないもの・ことより夢のあるものにお金が集まるのではないか
		余力でできることを増やすのは良いと思う。うれしさややった経験、広がりなどを感じる。そういうものが多いまちが豊かなまちだと思う
		生駒市の規模感ならではのカタチ・雰囲気、生駒市らしさ、適正な規模を考えていく必要がある
		お金を回すこと、お金を使いたいと思うような感覚を呼び起こすような、いろんなスタイルの店があれば良いと思う
		お金を回すことについては、飲食店の力が大事になってくると思う。生駒市の夜は早く、店が閉まるのも早い
		買い物や滞在の選択肢、楽しみを増やす
		近所の人が集いやすい場所があればよいと思う。その際に、やはり店はポイントになると思う。そのような場所が近くにあればいい
		みんなで作りやすい環境ができればと思う。場所は人が作るもの、自分たちが作って初めて思い入れも出てくる。チャレンジしたものがないと、人ごとになる。チャレンジを通じて自分ごとになっていく
		美容室などは地元にお金が落ちる。このようなまちに関わる業種が増えてほしい。人が動く業種。
地域経済循環	取り組み、イベントづくり	イベントや商店の質を上げること、満足感をもって帰ってもらうことを意識するように。その場合、生駒市ではどのような「質」を目指すのが重要
		今後BAL などやってほしい。住むまちの中で、住む人にとっての商売、住む人が豊かになるような商売が広がっていけばと思う
		イベント出店では、お客さんとのやり取りも広がる。お店以外の場所でのコミュニケーションができるのは良い
		つながりのある店の中には、もっと広げたいという店もあるが、今ぐらいでよいという人もいる。人によって濃淡あってよいと思う
		取組を増やしていくためには、まず体験や経験する機会を増やすこと。実際に体験したら変わる。それを周りの人にどう伝えていくかが大事
	起業・創業の支援	起業や創業など、しやすい環境だと思う
		店をしたい人ができるような、テナントがあればよい
		例えばびっくり通りの一角、1～2ヶ月で回るようなチャレンジショップが2～3ブースあれば面白いと思う
		創業塾などでふるいにかけてもらえればと思う。ある程度ハードルを設けて負荷をかけて、それでもやりたいという人が残っていくと思う
		お弁当屋をしたい人などいるが、店を持たない人も。自宅で販売している人も結構いる。共同での店舗というカタチもあると思う
		新しい店を出したい、という人が出てくるように。地域の魅力づくりと知ってもらうことの2つが重要だと思う
		市民が市内でお金を落とせるように、「良い店」を増やす・作るサポートが必要と思う。駅前が病院や塾だけになってしまうのも楽しくない。もっと楽しくなるように
		そこまで店も多くないので、新しい店の情報など口コミで広がりやすい。新しくスタートするには良かった
		生駒では、石橋を叩いても渡らない人が多い。お客さんの中の「いつかやってみたい」と思っている人に頼んで何かをやってもらうこともある。ちょっとした後押しにもなればよいかもしれないと思っている
		素人がすぐにはじめるということが難しい
		子育てと両立すること。サービス業だと休日に働くことになるが土日受け入れできる場所がない

副業の可能性	男性がまちなかで活動することが少ないように思う。女性の方が活発なことが多い。もしかしたらフルタイムで働いている人が少ないからかもしれない。この点が今後どのように広がっていくのだろうと思う
	時々素人で急に商売に出てくる人がいる。すぐいなくなる人も多い。趣味の延長でやる人、業界に関係のない素人に、どう向き合ったらよいか難しい
	ビジネスとしてしっかりやってくれるならサポートなどもできるが、既存の商売のじゃまになってしまう人もいる。中途半端な経験やものの見方で、仲間内で噂話を流されたりすると商売にも悪影響が出ることもある
	若い人のお小遣い稼ぎ感覚と既存の商売、どのように付き合っていけばよいか難しい
	ヒロミメシに集うママ友、シニアの人、お客さんの中には、得意なことを持っている人も多い（アクセサリやメイクなど）。表現する場や機会、売る機会などがあればよいのと思う。売れることはすごくうれしいこと。喜んでもらえることはうれしいことでもある
	生駒市はサラリーマンが多いので、新しい発想が少ないのかもしれない。自営業や手に職をつけて仕事をしている人は、自分でいろいろ考えて動くという訓練を受けていると思う
	ビジネスをするときは公益活動から始めるということを大事にしているそれが地域経済循環にも大切なのではないか
	生駒市だと、もし起業がうまくいかなかった場合再就職したり、ダブルワークなども可能だと感じている
	特に子どもがいる家族が副業をスタートさせるための支援
	暮らしの中に楽しみや仕事があり、回していくサポートがあればとても良い
	副業をできるかどうかでこれからの人生が変わると感じている。お金のためではなく、自分の暮らし、過ごし方のため
集まる機会づくり	コミュニケーションを生み出す場が必要
	小学校単位よりも、もう少し広い範囲を想定したつながり、お互いに協力できる協力者のつながりがあればと思う
	若い世代と生駒在住の人がお互いに関わる機会・場所があればよい
	日本人だけの発想ではできないことなど、広がっていくのではないかと思う。留学生にまちなちに出てきてもらって、こちらを支援してもらおうようなことができれば
	国際交流をさせたいと思っている人は多い。（生活の中では知らないから怖いという印象がまだある）まずはきっかけとして交流を生み出すようなことがあると良い
	人が集まる場所を作り、若い人がいける場所になれば、大阪まで行かなくてもよい。集まりが広がっていくように、出会いの機会を広げていきたい
	駅近くでカフェ「キニナル」もやっている。集う場所がほしいと思い、借りた物件をリノベーションし日替わり店長制、チャレンジショップとしてやっている。
	「ないなら作ればよい」という発想。なんとかなる、お客さんとのつながりの中でいろいろ手助けしてもらえるとと思っている
	行政の施設では実現できない、くつろぎや暖かさのある場所を民間でなら実現できる
	生駒市では集まることに使える場所が少ない。使いたい場所が少ない
	生駒市は喫茶店も減ってきている。まちなかでのちょっとした居場所がなくなっている。自宅の最寄り駅に着けば、すぐ家に直行。まじめな人が多いのか、家が好きなのか、もしかしたら立ち寄る場所がないからかもしれない。ワンクッション、自分だけの時間が持てる場所があればよいのにも思う
お店やカフェがあり、人が集まる場所があるとよい	